



発行者： 高崎康行  
発行日：24年6月25日  
第5号

### つぶやき 1

**「凡庸な教師はただしゃべる。少しましな教師は理解させようと説明する。優れた教師は自らやってみせる。本当に優れた教師は生徒の心に火を点ける」**

**先日の校長研修会で、鯨川村奥貫教育長の話にてできました。19世紀の教育学者「ウィリアム・アーサー・ワード」の言葉です。確かに、今まですごいと思った子どもの心には火がついていました。**

奥貫教育長の指導事項

- 若いときの失敗は償える。子ども達は大いに失敗してもいいのかなと思う。
- よいリーダーになるために、優れた師を持つこと。優れた人は、目の付け所が違う。  
例：心拍数を計って、運動量を分析して体育の授業を評価  
同じものを見るときも、視点を変えて見るのがよい。(裏から、離れて、中から等)  
例：卵を食べ物とみるか、生命と見るか。
- 子どもの知的好奇心を刺激する。
- 言葉は大事。

### つぶやき 2

**PTAの郡大会がありました。講演は、野口雨情氏のお孫さん、野口不二子様でした。雨情のことがとても身近に感じることができました。**

- 雨情の長男が6歳の時、はぐれカラスを見て「このカラスはお父さん、お母さんどっちをさがしているのかな？」と雨情が言ったそうで、その時長男は両親は別れると思ったとのこと。「カラスなぜ泣くの、カラスは山に可愛い7つの子があるからよ」(長男が数えて7歳)  
人間だけが生きているんじゃない。生かされている。
- 二人目の子、緑子は生まれて7日で死亡した。  
「シャボン玉とんだ」「シャボン玉消えた、とばずに消えた」  
命を大切に作る心があった。
- 不良少年少女と言われる子どもは、正しく伸ばしてもらえなかったかわいそうな存在。
  - ・ 伸びる方向に伸ばさなかった大人の責任！
  - ・ 雨情は良寛僧侶が好き、縁の下竹を切らずに縁板を切り、伸びては屋根を燃やした。竹を伸ばたい方向に伸ばしてやった。子どもも同じ正しい方向に伸ばしてあげる。
  - ・ 雨情は、社会教育の考えを童謡の中に入れていった。